

地域メディア研究まちや塾 第3回開催内容報告

平成 16 年 4 月 23 日 (金)

進行:熊倉 書記:藤野

参加者:清水光男 山崎昌敏 久米村恵子 橋本淳司 藤野正輝
猪俣美香 斎藤忍 多田征訓 猪俣芳浩 熊倉徹

第3回テーマ:地域情報ポータル具体的な内容・仕組みについて検討する

【協議事項】

地域情報を集約・案内する機能(地域情報ポータル)をどう実現させるか？

館林における既存メディアのニーズと問題点

携帯サイト(とくとくガイド:商工会議所) 最近アクセスが少ない、ライブ感がほしい(ノウハウをもつ人材必要)
エフエム MIT 情報ソースが少ない、発信エリアに限られる、人材不足で企画困難 聞きたいリスナー不満
全体 資金不足

地域ポータルの意義

- ・発信するメディアサイドや受信側の問題点やリクエストを解決するものにならない。
- ・地域ポータルづくりにおいて、地域(館林市)の特性にあった情報供給を検討する。
- ・ポータル化された情報は、質・内容とも地域に有効でなければならない。
- ・情報ポータルの活用により、結果として“まち”が活性化しなければならない。

館林以外の地域情報ポータル事例

大阪“あるっく” <http://www.yousworld.com/alook/>

横浜“市民メディア連絡会” <http://www.y-cmc.com/>

京都三条ラジオ・カフェ <http://www.radiocafe.jp/>

みやこネット:<http://www.miako.net/>

館林での取り組み案

- ・紙媒体案 すべてを刷り物にするのではなく必要に応じて印刷物とする。(予算及び経費に留意する)
(その他の情報はネット上で公開)
- ・インターネット案 共同メールマガジンを発信する。リアルタイムの情報発信が可能になるが、個人情報の保護及びセキュリティの確保が課題。
 メーリングリスト、BBSを立ち上げる。(まち研では利用率が低いのが現状。活用率の向上が課題)
 MITとインターネット・コンテンツの融合(デジタルFM化、各メディアとの連携、PR)
 いずれにしてもシステムづくり、が必要。
- ・実際に取り組む団体に講演会を依頼してはどうか？ 例:大阪“あるっく”
- ・情報配信エリアの拡大

情報ポータル実現に向けて

具体策 : 情報ポータルの具体的なしくみ(ポータル)を設計する + 他団体の講演会を聞く(同時進行で進める)
講演会の開催は、地域メディア研究まちや塾が企画・主催し、館林周辺地域の地域メディア運営者などにも声かけして開催してもよいが、他地域・他団体が開催するシンポジウム等にこちらが参加する方法もある。

具体策 : エフエム MIT をインターネットコンテンツと組み合わせる。
(実際にメディア間で連携できることから始めてみる)
効果 > インターネット上で音声を配信することで 200m以上の範囲に発信可能で今まで MIT を聞けなかった人も聞くことができる。 広域の情報発信が可能。

具体策実現のために不可欠な要素

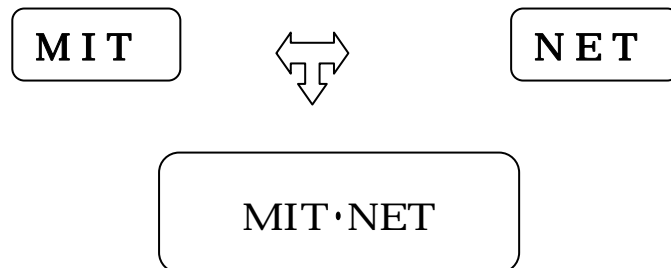
デジタル FM 化 PC およびプロトコル(機材)

- ・過去の放送を録音しネットで聞けるようにする オンタイムの放送は困難。
- ・紙メディアとの連携 関東新聞、シャトルの情報を番組で発信。
- ・企画の多様化 番組企画を多様化し番組を増やす。個人で企画を考えプレゼンする。

システム構築

- ・企業にアプローチする。
- ・システム構築にノウハウが必要。

概念図(エフエム局と既存メディアの融合)



次回の会議開催日は未定。メールや FAX で進捗状況・アイデア等を連絡しあい、具体策を進める